

[普及事項]

新技術名：9月下旬に収穫できる白毛の晩生エダマメ新品種「秋農試40号」  
(平成13～23年)

研究機関名 秋田県農業試験場 野菜・花き部 園芸育種・種苗担当  
担当者 佐藤友博・檜森靖則・他1名

[要約]「秋農試40号」は、県産エダマメ端境期の9月下旬に収穫できる晩生新品種である。  
毛じが白色で、莢外観が良く、香りがある。

[普及対象範囲]

秋田県内のエダマメ生産者。普及予定地域は県内全域。種子の供給は秋田県内に限定しており、2014年度は19haに作付けされている。今後、県内主要品種と同程度の50haに普及見込み。

[ねらい]

本県は、中晩生の良食味品種「あきた香り五葉」(2007年)を育成し、他産地との差別化とブランド化を図っている。

一方、「あきた香り五葉」と同時期に収穫できる白毛の品種として、民間種苗会社の「錦秋」があげられるが、生産者、指導機関等からは白毛の長期継続出荷を可能にするため、「錦秋」前後の端境期を埋める品種が要望された。そこで、「錦秋」の前に収穫できる「あきたさやか」(2009年)を育成した。

次の段階として、「錦秋」の後の端境期に収穫できる晩生品種の育成を図る。

[技術の内容・特徴]

1. 「秋農試40号」は、2001年に県内在来大豆の「AG209」(種皮色緑、晩生)を種子親、「AG306」(種皮色茶、中生)を花粉親として交配し、本県の気象条件の下で栽培、選抜、育成した品種である(図1)。
2. 6月10日播種時の収穫日は9月21日で、「錦秋」と「秘伝」の間に収穫できる。主茎長は「錦秋」より長く、「秘伝」より短い。種皮色は緑、花色は紫、小葉は3枚である。若莢の大きさは「錦秋」、「秘伝」に比べて小さく、「あきた香り五葉」に比べて、長さは同程度で幅はやや広い(表1)。
3. 可販莢収量は「錦秋」、「秘伝」に比べてやや少なく、「あきた香り五葉」と同程度である。毛じは白色で、莢の外観が良く、香りがある(表2)。
4. 播種適期は6月5日～20日で、収穫適期は9月20日～30日であるため、県産エダマメの端境期を埋めることができる。本品種と「あきたさやか」、民間種苗会社の品種を組み合わせることにより、白毛品種の長期継続出荷が可能である(図2)。

[成果の活用上の留意点]

1. 排水対策を十分に行う。
2. 施肥量、栽植密度は晩生種に準じる。

[具体的なデータ等]

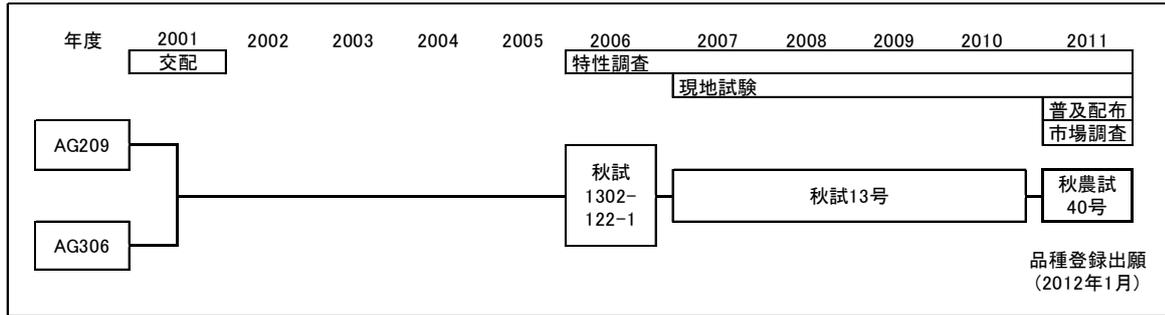


図1 「秋農試40号」の育成経過

表1 秋農試40号の特性-1 (2006~2011年、育成地、数値は6年間の平均値)

品種名	種皮色	開花期 (月/日)	花色	収穫期 (月/日)	播種から収穫まで日数 (日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節)	分枝数 (本)	小葉数 (枚)	若莢の大きさ 長さ 幅 (mm) (mm)	
秋農試40号	緑	8/3	紫	9/21	104	52.8	13.8	6.0	3	54.1	15.2
あきた香り五葉	黄	7/26	紫	9/9	92	40.5	10.9	3.7	5	53.9	13.4
錦秋	淡緑	7/26	白	9/9	92	44.5	12.1	4.4	3	60.3	14.3
秘伝	緑	8/9	紫	9/30	113	73.2	16.1	6.9	3	60.3	15.8

注) 6月10日播種(直播)、うね幅75~80cm、株間25~30cm、2粒まき1本立て。若莢の大きさ: 2胚珠2粒莢を調査。

表2 秋農試40号の特性-2 (2006~2011年、育成地、数値は6年間の平均値)

品種名	莢粒数別割合			くず 莢率 (%)	可販莢			毛じ の色	食味	香り	病害発生程度	
	3粒 (%)	2粒 (%)	1粒 (%)		莢数 (個/m <sup>2</sup> )	1莢重 (g)	収量 (kg/a)				べと病	茎疫病
秋農試40号	6	68	26	36	230	2.9	67	白	やや優	有	微発	微発
あきた香り五葉	18	61	21	34	229	2.8	66	淡褐	やや優	有	中発	中発
錦秋	8	74	18	25	276	3.5	98	白	中	無	少発	少発
秘伝	5	65	30	49	202	4.2	82	白	やや優	有	微発	微発

注) 健全に生育した個体から収穫した莢を調査に供した。可販莢: 2粒/莢以上。

病害発生程度目安: 微発: ~5%、少発: 5~15%、中発: 15~30%、多発: 30~50%、激発: 50%~。

毛じ	月	8月		9月		10月
	旬	下	上	中	下	上
白毛	夕涼み	■				
	あきたさやか(県育成)		■			
	錦秋			■		
	秋農試40号(県育成)				■	
	秘伝					■
淡褐毛	あきた香り五葉(県育成)		■			

白毛: 市場での青豆タイプ(レギュラー品なので年間を通じてニーズあり)

図2 「秋農試40号」導入後の県産エダマメ収穫期(8月下旬~)